

基本目標

人が集い、にぎわいと活力あふれるまち

政策 7 産業の振興



施策 7 - 1 工業の振興

施策 7 - 2 商業・サービス業の振興

施策 7 - 3 農林漁業の振興

政策 8 地域資源の活用



施策 8 - 1 ブランドの振興

施策 8 - 2 観光の振興

政策 9 働く環境の充実



施策 9 - 1 働く環境の充実

政策7 産業の振興

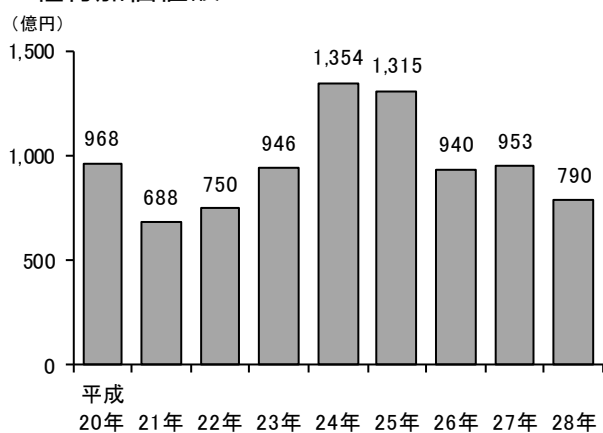
施策7-1 工業の振興

【現状】

- 多様な技術を持つ企業が集積しています。
- 粗付加価値額はリーマンショック前の水準まで回復しています。
- 第2次産業に従事する人の割合が全国平均を大きく上回っています。
- 市内企業の持つ技術は、さまざまな分野で貢献しています。

【資料・データ】

●粗付加価値額



【出典】工業統計調査、経済センサス

【課題】

- 企業が求める工業適地やすぐに活用できる工業系未利用地が不足しており、新たな工業用地が必要となっています。
- 経営者の高齢化が進み、小規模企業を中心に廃業を検討する企業が多くなっており、対応が必要となっています。
- 経営を引き継ぐ後継者をはじめ、技能職、製造職、管理職などの人材が不足しており、ものづくり人材の育成が求められています。
- 市内中小企業では、生産設備などの老朽化にともない稼働力が低下している一方で、IoTやAI、ロボット活用など革新的技術の活用に迫られており、労働生産性の向上が求められています。
- 経済・社会のグローバル化がこれまでになく加速している中、次世代産業への参入などによる、新たな価値の創造が必要不可欠となっています。

【施策展開の方針】

- 多様かつ高度な技術を持つ企業が集積するメリットを最大限生かした地域経済の活性化

【主な取り組み】

●企業立地の推進

未利用地や工業適地の掘り起こし、市内企業の流出防止や企業誘致に努めるとともに、市内経済を牽引する中核企業への支援を通じて市内中小零細企業への仕事の流れを強化します。また、新規創業支援にも積極的に取り組みます。

●工業活性化対策の推進

市内企業のもつ高い技術力をさらに高めるため、新技術・新製品開発支援に取り組むとともに、次世代産業や新規成長分野などへの参入支援、革新的技術の活用情報提供などに取り組みます。合わせて引き続き受注開拓の推進にも積極的に取り組みます。

●経営環境の充実

企業経営の安定化を図るため相談事業や制度資金の充実に努めるとともに、事業承継支援や生産性向上の推進に取り組みます。また、ものづくり人材の育成にも努めます。

●連携の強化

国や長野県、支援機関や大学等との連携を強化し、情報収集や高度化する技術への対応を図り、国の支援制度の活用を迅速に市内企業へ促します。この他、工業団体の強化充実や都市間交流を通じて、さまざまな課題解決に取り組みます。

●テクノプラザおかやの活用

産業振興の拠点として、市内企業への有益な情報発信と時代に即した支援に努めます。

【成果指標(KPI)】

●指標名：粗付加価値額

●指標内容：工業統計調査、経済センサスにおける粗付加価値額

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2016(平成 28)年度	終了時目標 2023 年度
粗付加価値額	790 億円	950 億円

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市工業活性化計画	2019(平成 31)年度～2023 年度

政策 7 産業の振興

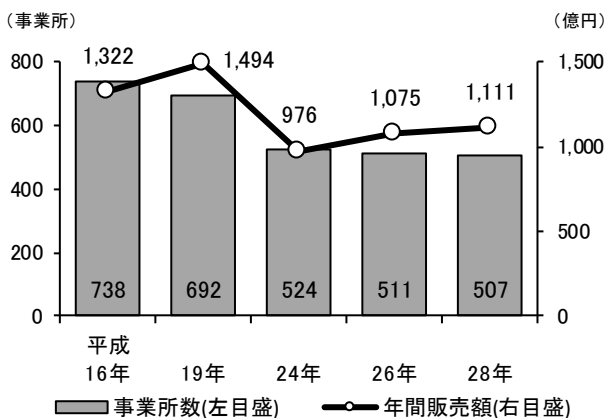
施策 7-2 商業・サービス業の振興

【現状】

- 新たな商業施設の開業や商業集積地への全国チェーン店の出店などにより、既存商店においては、大型店との競合状況の中で集客の確保等が困難となっています。
- インターネットの普及などにより、消費者ニーズの多様化や消費者のライフスタイルが大きく変化し、買物の仕方が多様化してきています。
- 人口減少等による商圈人口の減少や後継者問題や店舗の老朽化等もあり、商業環境はさまざまな問題を抱えています。
- 卸売業や小売業の状況として、平成 24 年以降は事業所数、年間販売額ともに横ばい傾向が続いています。
- サービス産業へのニーズの拡大、サービス産業の需要の増加が今後も見込まれています。

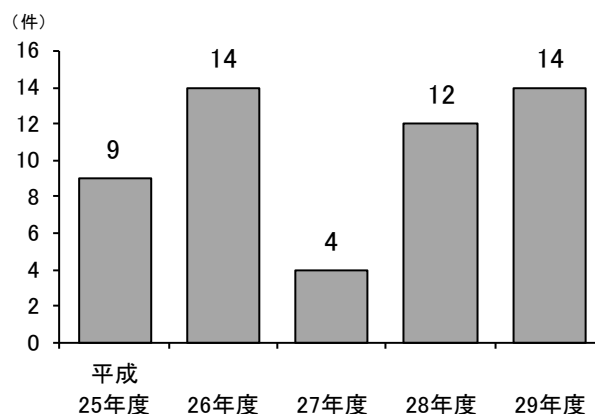
【資料・データ】

● 卸売業・小売業の推移



【出典】経済センサス、商業統計調査

● 商業等振興補助金による創業者支援件数



【出典】岡谷市産業振興部商業観光課調べ

【課題】

- 経営者の高齢化が進んでいること等から、商業を取り巻く現状への問題意識は持っているものの、その対策を積極的に講じていくのは難しい状況にあります。
- 中心市街地においては、空き店舗数が増加傾向にあるため、開業時のサポートや開業後の支援体制の充実等、空き店舗解消に向けた対策が必要となっています。
- 大型商業施設の開業により中心市街地を通行する若年層が増加していますが、大型商業施設以外へは経済効果が十分に及んでいない状況です。
- 市内には、多くの商業会組織がありますが、会員の廃業等に伴い、商店街としての魅力が薄れてきています。
- 顧客ニーズとライフスタイルの多様化により、さまざまな分野でのサービス需要が見込まれ、市民生活を支えるサービス業の育成も重要になってきます。

【施策展開の方針】

- 活力ある商業の振興

【主な取り組み】

- 商業の活性化実現

商業会等が主体的に行う事業を支援し、商業会としての結束力を高めながら、集客につながるイベント開催などの展開により、商店街の賑わい創出を図ります。

- サービス業の振興

幅広く進展するサービス業の流れに対応するとともに、多様化する市民ニーズも踏まえながら、サービス業の支援に努めます。

- 創業者育成支援

地域活性化と空き店舗対策を推進するため、改修費や賃借料の補助等を通じ開業支援に一層取り組みます。

- 商業・サービス業の経営基盤充実

市内企業の情報受発信力の向上を促進するとともに、岡谷市中小企業融資制度および各種補助金を充実し、商業やサービス業の経営の安定を図ります。

【成果指標(KPI)】

- 指 標 名：①年間販売額

②支援による創業者数

- 指標内容：①経済センサス等による卸売業・小売業の年間商品販売額合計

②商業等振興補助金による創業者支援数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績)	終了時目標 2023年度
①年間販売額	2016(平成28)年度 1,111億円	1,147億円
②支援による創業者数	2017(平成29)年度 14件	65件(5年間累計)

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市商業活性化計画（予定）	2019(平成31)年度～2023年度

政策7 産業の振興

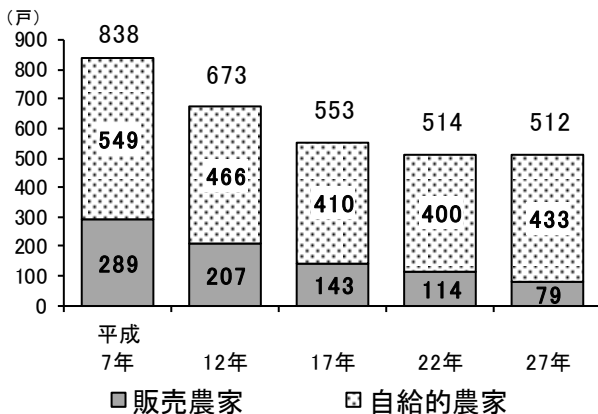
施策7-3 農林漁業の振興

【現状】

- 農地面積(遊休農地を含む)は 301ha で、市の総面積の 3.5%にとどまり、3カ所の農業振興地域以外は比較的小規模な農地が点在しています。
- 農業の形態は、花き、野菜を中心とした都市型農業で、耕作規模の小さい自給的農家が大半を占めています。
- 森林面積は 5,674ha で、市の総面積の 66.7%を占めており、そのうち 5,653ha は民有林となっています。
- 民有林の 84.7%は針葉樹であり、そのうちカラマツを主体とした人工林は 3,849ha あり、11～13 齢級(51～65 年生)の高齢級(主伐期)となっています。
- 漁業は、諏訪湖、天竜川などにおいて、コイ、フナ、ワカサギなどの漁獲と養殖が行われています。

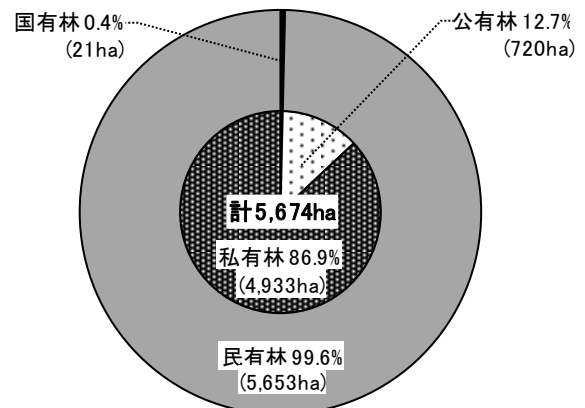
【資料・データ】

● 総農家数



【出典】 諏訪地方統計要覧

● 保有形態別森林面積



【出典】 岡谷市森林簿(平成29年10月1日現在)

【課題】

- 農業者の高齢化、後継者不足により、農家数、農業就業者数、耕作面積が減少し、これに伴い遊休農地や荒廃農地が増加しています。
- 農業振興地域以外は比較的小規模な農地が点在していることから、新規就農希望者や中核的担い手への農地の集積が難しい状況にあります。
- 森林の所有形態が零細であることや所有者が不明などにより整備が進まない状況があります。
- カラマツを主体とした人工林は高齢級のため主伐期を迎えているものの、依然として原木価格の低迷が続き、伐採から再生林へつながらない状況にあります。
- 市内で松くい虫被害が確認されたことから、本市の大切な松林を守るべく、松くい虫被害の拡大防止に取り組む必要があります。
- 諏訪湖の魚介類は、外来魚[※]、魚食性鳥類[※]による被害や貧酸素状態[※]の拡大によると考えられるワカサギ等大量死の影響により減少傾向にあり、湖内環境の改善と増殖のための場づくりや環境づくりが喫緊の課題となっています。

【施策展開の方針】

● 農業の振興

担い手の育成や後継者の確保、市民と農のふれあいによる地産地消の推進および新たな農業者の確保を図るとともに、遊休農地の発生抑制など農地利用の最適化を進めます。

● 森林の整備

森林機能に応じた適正な施業や、松くい虫防除対策により、森林資源の維持造成を図ります。

● 漁業の振興

湖内環境の改善、漁業資源の保護、育成により、漁業経営の安定化を図ります。

【主な取り組み】

● 農業の担い手の育成、後継者、新たな農業者の確保

国、県等の支援制度の活用や農地の利用集積などにより、中核的担い手の育成、後継者の確保を行います。また、特産品の創出、市民農園などの市民と農のふれあいによる地産地消と新たな農業者の掘り起こし等により農業の活性化を図ります。

● 遊休農地の発生抑制など農地利用の最適化の推進

農地の利用状況や利用意向の調査、農地バンクなどによる農地情報の提供、農地貸し借りのマッチング等により農地利用の最適化を推進します。

● 森林機能に応じた適正な施業の推進

岡谷市森林整備計画に基づき、森林経営管理制度(新たな森林管理システム[※])を活用した経営管理の委託や、森林経営計画の作成支援および集約化による間伐の推進など国、県の補助制度等を活用し、計画的な造林、育林、森林路網の整備を行います。

● 松くい虫防除対策

松くい虫被害の拡大を防止するために、早期発見・早期駆除を第一に、監視、伐倒・駆除、予防、周知等の防除対策を行います。

● 湖内環境の改善、漁業資源の保護、育成

長野県が策定した諏訪湖創生ビジョンと連携を図りながら、県を中心として、湖周市町、漁業協同組合(漁業者)、関係機関と連携し、貧酸素状態など湖内環境の改善に向けた対策、外来魚駆除、魚食性鳥類による食害防止対策、種苗放流[※]などによる漁業資源の保護、育成を行います。

【成果指標(KPI)】

● 指 標 名：①遊休農地面積

②民有林年間間伐面積

● 指標内容：①岡谷市農業委員会農地利用状況調査による各年度の遊休農地面積

②市に届出等のあった各年度の間伐面積

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成 29)年度	終了時目標 2023 年度
①遊休農地面積	12.7ha	6.7ha
②民有林年間間伐面積	69.7ha	130ha

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市森林整備計画	2018(平成 30)年度～2028 年度
鳥獣被害防止計画	2017(平成 29)年度～2019 年度

【用語解説】

※外来魚：ブラックバスやブルーギルなど海外から移入された魚類の総称です。

※魚食性鳥類：カワウやカワアイサなどの魚食性の種で、ワカサギへの影響が問題視されています。

※貧酸素状態：水中の溶存酸素が欠乏している状態。ワカサギ等の大量死については、貧酸素水域の拡大がその一因ではないかと考えられています。

※新たな森林管理システム：森林所有者自らが森林管理を行えない場合、森林所有者から市町村が経営権を受託し、意欲と能力のある林業経営者に再委託します。再委託できない場合は市町村が自ら森林を管理することで森林の経営・管理を集約し、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を図ります。

※種苗放流：各種魚の卵や稚魚を放流することです。

政策8 地域資源の活用

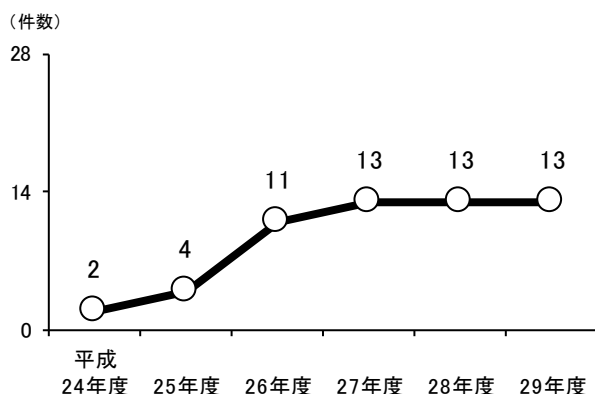
施策8-1 ブランドの振興

【現状】

- 「岡谷ブランドブック[※]」に掲げたアクションプラン[※]の実施件数は13件に増加しています。
- おかやブランドプロモーション協議会[※]による戦略的かつ継続的な取り組みにより、岡谷のブランド化が推進されています。
- 岡谷ブランドの発信拠点である「蚕糸博物館」を核に、「岡谷らしさ」を全国に向けて情報発信しています。
- 市内で養蚕への取り組みがはじまるなど、岡谷ブランドの核となるシルク関連商品の開発に対する機運が高まっています。

【資料・データ】

● アクションプラン実施件数



【出典】岡谷市産業振興部ブランド推進室調べ

● 岡谷ブランドロゴ



【課題】

- 「湖に映える、美しいものづくりのまち」を岡谷のブランドコンセプトとして、岡谷の魅力を発信するため「岡谷ブランドブック」に沿ったアクションプランを実施し、特に女性及び若年層へのブランド化の推進による認知度の向上が必要です。
- ブランドブックに掲げるアクションプランの取り組みや、ブランドロゴの普及など、継続的な情報発信が必要です。
- 豊かな自然資産をはじめ、ものづくり資産、シルク関連資産、食資産などに加え、本市出身の童画家である「武井武雄」を中心とした文化資産などを組み合わせた、岡谷ならではの体験価値などの提供が求められています。
- 岡谷ブランドの核となるシルク関連商品の開発に向けた、情報提供や技術支援等が必要です。

【施策展開の方針】

- 岡谷ブランドの推進

【主な取り組み】

●岡谷ブランドの構築

岡谷ブランドブックに掲げる「湖に映える、美しいものづくりのまち」を岡谷のブランドコンセプトに、諏訪湖をはじめとした豊かな自然や武井武雄アート、食など地域の特色ある資産の活用を通じ、おかやブランドプロモーション協議会とともに官民協働でアクションプランを推進し、岡谷ブランドの構築を図ります。

●岡谷ブランドの発信

蚕糸博物館を岡谷ブランド発信の拠点として、メディアやインターネットのほか、写真や動画による情報発信に有効なInstagramなどのSNSを通じて、岡谷ブランドロゴをはじめ、「岡谷らしさ」を官民一体となって全国に発信し、本市のブランド化の推進と認知度の向上を図ります。

●新たなシルク文化の創造

シルク岡谷の歴史と文化を伝承するとともに、岡谷ブランドの核となるシルク関連商品の開発に向けて、地域おこし協力隊[※]と連携し、養蚕から生糸生産、製品化など、新たなシルク文化の創出につながる取り組みを官民協働で推進します。

【成果指標(KPI)】

●指標名：岡谷ブランドブックアクションプラン取組件数

●指標内容：岡谷ブランドブックに掲げたアクションプラン 28 件のうち実施した件数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成 29)年度	終了時目標 2023 年度
岡谷ブランドブックアクションプラン取組件数	13 件/28 件	20 件/28 件

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷ブランドブック	平成 24 年度～

【用語解説】

※岡谷ブランドブック：岡谷の魅力を高め、市外から多くの人々を呼び込み、岡谷市を「訪れたいまち・住み続けたいまち」に育てるため、平成 24 年 3 月、民間主体の「岡谷市ブランド戦略検討委員会」が、「岡谷のブランド化」に向けたブランドコンセプトやアクションプランなどをまとめた冊子です。

※岡谷ブランドブック アクションプラン：岡谷のブランドコンセプトをもとに、自然、ものづくり、シルク、文化、食などの資産を活用しながら、岡谷の魅力を高めていくためのプランです。

※おかやブランドプロモーション協議会：民と官との連携により、岡谷ブランドの構築を図る事業の推進及びこれを円滑に実施するとともに、地域産業の振興を図ることを目的として平成 24 年に設立された団体です。

※地域おこし協力隊：地方自治体が都市住民を受け入れ、一定期間（おおむね 1 年以上 3 年以下）地域で生活し、地域ブランドや地場製品の開発・販売、住民の生活支援など、各種の地域協力活動に従事してもらいながら、当該地域へ定住・定着を図る取り組みです。

政策 8 地域資源の活用

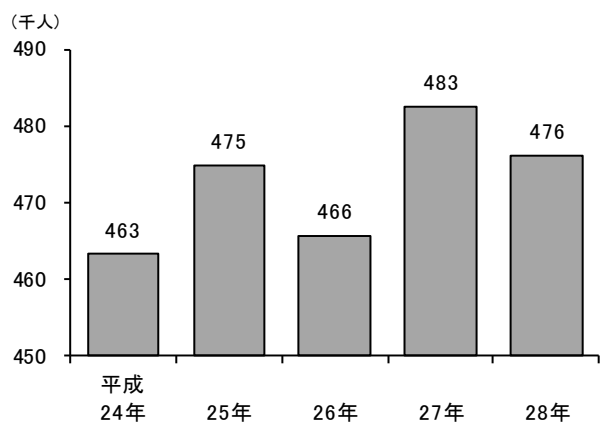
施策 8 - 2 観光の振興

【現状】

- 他の自治体と比較すると知名度が低いため、本市が旅行の主要目的地となることは多くありません。
- 団体旅行から個人旅行へシフトし物見遊山的観光から体験プログラムやアクティビティ等を好む旅行者が増加しています(観光ニーズの多様化)。
- インバウンドや交通網の整備による日帰り観光旅行者が増加しています。
- スマートフォン等の普及により、SNS等が旅行先を決める重要な要素になっています。

【資料・データ】

●観光客の推移



【課題】

- 旅行の主要目的地になるため、観光資源を磨き上げ諏訪地域が連携してさまざまな魅力を発信し諏訪地域への誘客に努める必要があります。
- 多様な観光ニーズに対応した観光資源を発掘する必要があります。
- 産業観光による企業側のメリットの構築が必要です。
- SNS等を活用した情報発信が必要です。

【施策展開の方針】

- 特色ある観光の推進
- 観光客受入れ体制の整備

【主な取り組み】

● まちなか観光の推進

飲食店などの商業施設、カノラホール、蚕糸博物館、美術考古館、イルフ童画館、プリンス&スカイラインミュージアムなどの観光・文化施設、やまびこスケートの森などのスポーツ関連施設、宿泊施設など、これらの地域資源を組み合わせ魅力あるまちなか観光を推進します。

● 自然環境を活用した観光の推進

諏訪湖、湖畔公園、鳥居平やまびこ公園、塩嶺御野立公園、塩嶺王城パークライン、高ボッチ高原、鉢伏山など豊かな自然環境を活用した観光を推進します。

● 産業観光の推進

製糸業から精密機械工業へ転換したもののづくりの歴史を活かした産業観光を推進します。また、シルク製品や飲食料品など他産業分野とも連携し、土産品の開発や販売支援に努めます。

● 観光イベント等の充実

岡谷太鼓まつり、小鳥バス、つつじ祭り、7年に一度行われる御柱祭などの歴史あるイベントやうなぎなどの食資産の魅力向上を図るとともに、新たな観光イベントの支援に努めます。

● 観光情報の発信

S N S等を有効活用し観光ニーズに対応した情報を積極的に発信します。また、県や諏訪地方観光連盟などと広域連携を図りながら、訪日外国人観光客にも対応した情報発信と誘客活動に努めます。

● 観光関係団体の育成・強化

岡谷市観光協会など観光関係団体の育成や強化を図りながら、民間ノウハウを活用した観光客の受入れ体制の整備に努めます。

【成果指標(KPI)】

● 指 標 名：観光客数

● 指標内容：長野県観光地利用者統計調査による1年間における岡谷市の観光客数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2016(平成28)年度	終了時目標 2023年度
観光客数	476,100人	495,000人

政策 9 働く環境の充実

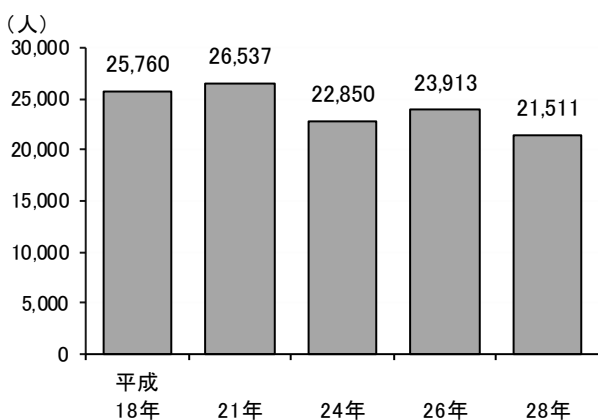
施策 9 - 1 働く環境の充実

【現状】

- 諏訪地域の有効求人倍率は、高水準で推移しています。
- 多くの業種において、労働人材、中核人材のいずれも人材不足です。
- 国では、「働き方改革実現会議」を設置するなど「働き方改革」に取り組んでいます。
- 多様な働き方ができる職場環境やワーク・ライフ・バランスの推進が求められています。

【資料・データ】

- 岡谷市の従業者数



【出典】 経済センサス、事業所・企業統計調査

【課題】

- 新卒学生の強い大企業志向などにより、大都市へ人口流出をしており、学生のUターン者が減少しています。
- 雇用のミスマッチが続いており、さらなる地域企業の魅力を発信することが必要です。
- 生産年齢人口の減少に対する、生産性向上に向けた人材育成が急務となっています。
- 若者、女性や高齢者、障がいのある方など多様な人材が、働き手の状況や志向にあった柔軟な働き方ができる職場環境づくりの普及や啓発を推進していくことや、国の「働き方改革」に対する対応が必要です。
- 中小企業の多くが自社内における十分な福利厚生の整備の確保が容易ではないことから、勤労者福祉推進団体のさらなる活用、勤労者福祉制度の充実が必要です。

【施策展開の方針】

- 性別・年齢・心身の状況や子育てや介護などに関わらず、多様な働き手が最大限の能力を発揮することができる、働く環境の整備の推進
- 仕事と家庭を両立できるようワーク・ライフ・バランスの推進による、働く環境の充実

【主な取り組み】

●人材確保対策の推進

小中学生への「ものづくり」の意識醸成を図るとともに、高校や大学とのさらなる連携強化を図り、市内企業のガイダンスやインターンシップなどを実施し、若年人材を中心としたU I J ターンの促進に取り組むほか、ハローワーク等の関係機関と連携し、求人情報の提供や就労相談などを行い、雇用のミスマッチ解消や市内企業への人材確保支援に取り組めます。

●人材の育成・強化

信州大学大学院諏訪圏サテライトキャンパス、公立諏訪東京理科大学、長野県岡谷技術専門学校、長野県工業技術総合センターなどの関係機関と連携し、人材の育成に努めます。

●職場環境の充実や労務管理の適正化

働きやすい職場環境の整備や充実を促進していくほか、国の「働き方改革」への対応について支援します。また、働く人の健康確保や安全意識の高揚に努めるほか、適切な労務管理の啓発に取り組めます。

●福利厚生の充実

働く人の福祉対策に向け、(一財)諏訪湖勤労者福祉サービスセンター、長野県労働金庫などの関係機関を活用し、福利厚生を充実を図ります。また、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、勤労青少年ホーム・勤労会館の活用を促します。

【成果指標(KPI)】

●指 標 名：①就職説明会等への参加者数

②諏訪湖勤労者福祉サービスセンターの会員数

●指標内容：①岡谷市が主催する新入社員激励会の参加者数

②諏訪湖勤労者福祉サービスセンターの各年度末時点の会員数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成 29)年度	終了時目標 2023 年度
①就職説明会等への参加者数	602 人	650 人
②諏訪湖勤労者福祉サービスセンターの 会員数	5,024 人	5,100 人

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市工業活性化計画	2019(平成 31)年度～2023 年度

